

ますます深化する台日関係

「台日漁業協議」に調印

亜東関係協会(台湾)と公益財団法人交流協会(日本)は2013年4月10日、台北賓館において第17回漁業会談を開催し、双方は会談後に「台日漁業協議」に調印した。

今回の漁業会談は、双方の重複する排他的経済水域(EEZ)における漁業の操業のルールが合意に達したものであり、双方の主権に対する主張には言及されていない。釣魚台列島の周辺12キロは、わが国の主権が及ぶ領海であり、今回の協議が適用される水域には含まれない。

「台日漁業協議」は北緯27度以南および、日本の先島諸島以北の間の水域において、大きな範囲での「協議適用水域」を線引きした。これにより、わが国の漁船は同海域内における操業権の確保を実現し、わが国の関心事項であるその他の操業水域などの問題については、「台日漁業委員会」を設立し、引き続き話し合いを行っていく。

主権は断じて分割あるいは譲歩することはできないが、資源は分かち合うことができる。これは馬英九總統が提起した「東シナ海平和イニシアチブ」の基本理念である。

【外交部 2013年4月10日】

「台日漁業委員会」正式に設立

亜東関係協会と交流協会は2013年5月7日に台北で「台日漁業委員会」を正式に設立し、第1回会談を開催した。

「台日漁業委員会」は、「台日漁業協議」の規定に基づいて設立されたものであり、協議内容の実践ならびに各種協力事項を引き続き推進していくための、制度化された協議メカニズムを構築し、双方の関心事項について協議を継続していくものである。

今回の会議では、双方の漁業界代表を招いて議論し、「協議適用水域」の操業秩序およびルールについて深い意見交換を行った。

【外交部 2013年5月7日】

馬英九總統

自民党青年局幹部らと会見

自由民主党(以下、自民党)の青年局長、小泉進次郎・衆議院議員を団長に、33名の国会議員および地方議員、日本各地で活動している同青年局幹部のメンバー総勢97名が9月9日、同12日に台湾を訪問した。

小泉・青年局長は出発当日のあいさつの中で、「青年局と台湾とのつながりは、長年の絆と経緯がある。今回の台湾訪問では、東日本大震災に際し、台湾の皆様から破格のご支援をいただいたことに感謝の意を伝



總統府を訪問した自民党青年局訪華団

えたい。さらには、自民党青年局が日台関係を新たなステージへ持っていききっかけとなるような、有意義な訪問にしたい」と抱負を述べた。

9月10日午前、馬英九總統は、總統府で自民党青年局の訪華団一行と会見し、「自民党青年局は、自民党と台湾との交流の重要な窓口の一つであり、長年にわたり台日関係の推進に尽力され、顕著な成果を収めてこられた。今回の訪問は、双方の相互理解強化にプラスになるものと確信している」と歓迎の意を表した。

台日関係発展の現状については、「台日間には正式な外交関係はないが、実質的な関係は、外交関係のある国々に引けをとらないものがある。双方は経済・貿易、文化、観光、青年交流などの分野において、いずれも密接なつながりがあり、「青年ワーキングホリデー協定」、「台日投資協議」、「航空自由化(オープンスカイ)」、駐日代表処札幌分処の開設、台北の松山空港―東京の羽田空港間の直行便運航など具体的な成果があった」と紹介した。

李嘉進氏が亜東関係協会会長に

亜東関係協会は2013年5月24

日、李嘉進氏を会長に全会一致で選出した。

李嘉進会長は、1957年、台南市生まれ。国立台北大学財政学専攻卒業、日本・筑波大学経済学修士。1990年に日本から帰国後、東呉大学で教鞭を執り、その後、經濟部（経産省に相当）に入省し、1999年に立法委員（国会議員）に初当選した。以来、連続4期にわたり立法委員を務め、2009年10月より総統府国家安全会議諮問委員として、経済戦略、対日政策、兩岸関係等の各方面で積極的に建言し、「台日投資協議」、「台日漁業協議」等の重大案件の推進をサポートした。

【外交部 2013年5月24日】

李・内政部長、日本の防災視察
李鴻源・内政部長（内相）は7月22日～7月26日に訪日し、日本の防災機関および施設を視察した。

李部長一行は、日本滞在中に東京都、京都府、兵庫県を訪れ、内閣府防災拠点「有明の丘」、東京都防災センター、東京都立足立区舎人防災公園、京都大学防災研究所、関西広域連合広域防災局などを視察した。また、京都大学防災研究所を訪問

した際には、李部長が「地球気候変動への対応と適応—台湾の経験から」をテーマに講演し、近年の台湾における防災の成果を日本の防災専門家らとともに議論した。

【内政部 2013年8月4日】

沈斯淳・駐日代表
東日本大震災2周年追悼式出席
台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・代表は3月11日、日本政府が主催する第2回「東日本大震災」追悼式典に出席した。

沈代表は、中華民国（台湾）政府および国民を代表し、同震災により亡くなられた方々およびご遺族に対し、哀悼ならびに慰問の意を表した。日本政府は今年の追悼式典の中で、東日本大震災に対する各国からの関心と協力に感謝の意を表した。

同式典では、「指名献花」も行われ、当駐日代表処の沈代表も各国の使節と共に、震災により不幸にして亡くなられた方々へ追悼の献花を行った。

馬總統、岸信夫衆院議員らと会見
馬英九總統は5月1日、総統府で日本の自由民主党「日本台湾経済文化交流を促進する若手議員の会」の

会長を務める岸信夫・衆議院議員ら一行と会見した。

このなかで馬總統は、今年初めに日本の岸田文雄・外務大臣が（日本の対台湾窓口機関である）交流協会設立40周年の祝賀メッセージのなかで「日台間の深い友情と信頼関係を支えているのは、民主、自由、平和といった基本的価値観の共有である」と述べ、台湾を「重要なパートナー」と言及したことに對して、「私が提唱した『台日特別パートナー関係』に呼応するものである」との認識を示し、今後より一層の実質的関係の向上に期待を示した。

【總統府 2013年5月1日】

深まる台日地方交流
台日間の往来拡大とともに、地方交流もますます盛んになっている。

今年に入り、馬英九總統が1月11日に小川洋・福岡県知事、1月25日に蒲島郁夫・熊本県知事、7月19日に黒岩祐治・神奈川県知事らと会見したほか、1月に石井隆一・富山県知事、2月に鈴木英敬・三重県知事、3月に川勝平太・静岡県知事、6月に浜田恵造・香川県知事、河野俊嗣・宮崎県知事、8月に横内正明・山梨

県知事が台湾を訪問するなど、日本の地方首長が相次いで訪台し、台湾で各地方の魅力アピールし、関係強化を呼びかけた。

また、3月4日に陳菊・高雄市長が群馬県庁を訪れ大澤正明・知事と会見し、「高雄」と群馬県との経済分野における友好協力に関する協定に調印したほか、鄭成功を共通点として交流を深めている台南市と長崎県平戸市が7月13日に「台南と平戸の市民交流促進協定」を調印。花博の開催地で共通する台北市と浜松市も7月31日に「観光交流都市協定」に調印した。

このほか郝龍斌・台北市長は、8月4日に愛媛県と松山市が共同主催する「松山 to 松山」チャーター便運航プレス発表に出席した。中村時広・愛媛県知事は、愛媛県庁で萩市長一行を盛大に歓迎し、2つの「松山」空港を結ぶチャーター便の運航による交流強化に期待を示した。

台北松山空港と愛媛松山空港を結ぶチャーター便は、中華航空（チャイナエアライン）が2013年10月11日と同14日に運航することになる。

進展する台日間の 経済・貿易・産業技術協力

日本の地方自治体と産業提携が進展

富山県では2013年1月8日に台湾において「富山県台北ビジネスサポートデスク (Business Support Desk)」を開設すると共に、「石井隆一・富山県知事が自ら代表団を伴って台湾を訪問し、同事務所の開所式典を執り行った。続いて、福岡県も1月10日に小川洋・知事が代表団を伴い台湾を訪問し、福岡県と台湾の産業面での協力関係の積極的な強化を図った。

【經濟部 2013年1月14日】

管中閔・政務委員ら訪日団が 台日産業技術提携の機会開拓

行政院の管中閔・政務委員（無任所大臣に相当）は、經濟部の工業局および技術処、台日産業連携推進オフィス (TJPO) などの関係者をメンバーとした訪問団を組織し、1月14日～同19日の日程で東京および大阪を訪れた。代表団一行は、日本

の産業・経済関連の各シンクタンクのトップを訪問し、それぞれ会談を行った。

【經濟部 2013年1月23日】

台湾のらん栽培技術が高く評価

「世界らん展日本大賞2013」が2月16日～同24日、東京文京区にある東京ドームで開催された。審査部門に、海外から出展された作品の中で、台湾は今年も圧倒的な多さの受賞数となり、台湾の技術の高さが示されるものとなった。

16日には、台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・代表が会場を訪れ、台湾の出展業者のブースを1つ1つ回り、労いと励ましの言葉をかけた。

TAITRAとJETROが 協力覚書に調印

中華民國対外貿易発展協会（台湾貿易センター、TAITRA）の王志剛・董事長（会長）は、TAITRAの趙永全・秘書長ら関連部門の

トップを伴い、今年東京で開催される日本貿易振興機構（JETRO）との「TAITRA-JETRO連席会議」に出席のため来日した。2月26日に開かれた同会議において、

王・会長はJETROの石毛博行・理事長と協力の覚書に調印した。

今回、双方による協力覚書の調印では、環境保護、エネルギー、IT、電子、農漁業品、食品などの産業のほか、国民生活に関連するサービス産業の協力が特に多く含まれている。

日本の食品見本市に百社以上が出展

アジア最大級の食品・飲料専門の見本市「FOODEX JAPAN 2013」/国際食品・飲料展」が3月5日に千葉

県にある幕張メッセで開催し、台湾は100社を上回る業者が出展した。

5日午前には台湾パビリオンでも開幕式が開かれ、TAITRAの葉明水・副秘書長、立法委員の陳明文・議員、陳菊・高雄市長、張花冠・嘉義県長、沈斯淳・駐日代表らが出席し、テープカットを行った。

沈・駐日代表はあいさつの中で、「台日双方の昨年における貿易総額は600億米ドルを上回り、台湾の

農産品の輸出は、その21%が日本へと輸出されている」と紹介した。

台湾と東京都が水道技術交流 協力の覚書に調印

4月11日に、東京都水道局の増子敦・局長と台湾自來水（水道）公司の陳福田・総経理（社長）が、それぞれを代表し技術協力の覚書に調印した。今回の調印は、これまでの台日間の厚い友誼を表すものであると共に、水道事業において、より一層緊密な技術協力を行うものである。

【經濟部 2013年4月11日】

「台日電機電子産品検査相互 承認協議 (MRA)」が発効

「台日電機電子産品検査相互承認協議 (MRA)」が7月1日に発効した。これについて經濟部は、同取決めは、業者の認証コストの削減に寄与し、台日間の貿易を促進し、双方の経済・貿易関係の新しい一里塚になるとの認識を示した。MRAは、2012年11月29日に台北で開催された「第37回台日貿易経済会議」のなかで、台湾の亜東関係協会と日本の交流協会の代表が調印したものの。

活発な台日文化交流

大成功、台湾公演の宝塚歌劇団

宝塚歌劇団による初の台湾公演が4月6日～14日に、台北市内にある国立中正文化センター「国家戯劇院」(ナショナルシアター)で12公演が行われ、大成功を収めた。

台湾公演に先立ち、1月30日夕、東京白金台にある台北駐日経済文化代表処(駐日代表処)の代表公邸で、



柚希礼音さん(中央)ら、星組の出演者が出席

「宝塚歌劇団台湾公演」の記者会見が駐日代表処および宝塚歌劇団の主催により開催され、国内外の多くのメディア関係者が出席した。

この日の記者会見で沈斯淳・駐日代表は、「今年最も注目されている台日文化交流イベントが、宝塚歌劇団の台湾公演である。当代表処は長らくこの台湾公演を台日文化交流の重要目標として推進してきた。今回実現することになり、非常に嬉しい」とあいさつした。

宝塚歌劇団の小林公一・理事長は、「駐日代表処、外交部、日本の交流協会、日華議員懇談会(日華懇)など各関係者からの要請を受け、今回、台湾で初めて公演することになった。今まで以上に、日台文化面での密接な関係ができるよう頑張りたい」と抱負を述べた。

台湾公演に出演する星組男役トップの柚希礼音さんは、「台湾の皆様楽しんでいただける舞台をお届けできるよう、稽古を重ねている」と

語った。

4月6日の公演初日には、台日文化交流のこの大イベントを祝い、日本から日華懇の会長、平沼赳夫・衆議院議員および幹事長の藤井孝男・衆議院議員ら多くの国会議員が同公演の観劇のために台湾を訪問した。

中正紀念堂の大氷像札幌に登場

北海道札幌市で2月5日より開催された第64回「さっぽろ雪まつり」に、台北駐日経済文化代表処は毎日新聞社と協力し、台北市にある「国立中正紀念堂」を模った大氷像を制作し、披露した。

雪まつり初日の5日には、中正紀念堂大氷像前で、沈斯淳・駐日代表は、朝比奈豊・毎日新聞社社長、秋元克広・札幌市副市長らと共に開幕のテープカットを行った。

あいさつを述べた沈斯淳・駐日代表は、中正紀念堂の建物は青い瓦屋根と白い大理石の壁が美しいことや、園内の「国家戯劇院」で今年4月に宝塚歌劇団の台湾公演が開催されること、昨年台湾から北海道を結ぶ航空路線が次々と開設されたことなどを紹介した。



大氷像前でのオープニングイベント

「ライフ・オブ・パイ」東京上映

台北駐日経済文化代表処は2月21日、東京・お台場のシネマ・メディアージュで台日関係者約220人を招いて台湾出身のアン・リー(李安)監督による映画「ライフ・オブ・パイ/トラと漂流した227日」(原題: Life of Pi)の特別上映会を開催し、沈斯淳・駐日代表が来賓らを歓迎した。

同上映会では3Dバージョンが上映され、海の立体的な美しさと、迫力あるアクションシーンが一層際立ち、会場は感動に包まれた。



台湾チームの応援で盛り上がるスタンド

感動を呼んだWBC台湾VS日本戦

ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)第2ラウンドへの進出を決めた謝長亨監督率いる台湾代表チームは、3月6日午後成田空港に到着し、日本入りした。

台湾は3月8日夜7時より東京ドームで、日本と対戦した。試合は3対3で延長戦にもつれこみ、10回表に日本は1点を加え、台湾は10回裏に懸命の反撃を試みるも、結果は3対4で惜しくも及ばなかった。

試合後の記者会見で謝長亨監督は、「今回の教訓を深くくみ取り、補強を重ねて、よりよいプレーを目指したい」と述べ、全力を尽くした選手

らをねぎらった。

台湾は3月9日夜7時より、敗者復活をかけてキューバと対戦し敗れたが、球場スタンドからは台湾の選手らを称える大きな拍手に沸いた。台北駐日経済文化代表処の沈斯淳・代表夫妻は、台湾チームを応援

するため、8日および9日の両日、東京ドームに駆けつけ、試合を観戦した。スタンドでは台湾を応援する人々が中華民国国旗を振りながら声援を送った。また、日本を応援する観客からも東日本大震災への台湾からの支援に対して感謝を示すプラカードが掲げられるなど、友好的なムードの中、試合が行われた。

スカラシップ表彰式代表処で

「真の若者交流を通じて明日の日台新時代を拓く」をテーマに日本全国の中学生から大学生を対象に、広く作文、書道を募集し、審査により選出された「第10回日台文化交流青少年スカラシップ」受賞者の表彰式が3月25日、東京・白金台の台北駐日経済文化代表処代表公邸で開催された。

表彰式では台北駐日経済文化代表

処の陳調和・副代表があいさつし、

「台湾での実際の体験を通してさらに台湾の理解が深まることと確信している。将来はその体験と理解を生かして日本と台湾の架け橋となつていただきたい」と述べ、受賞者らの台湾研修旅行出発を祝福した。

杉並で「まるごと台湾フェア」

東京都杉並区の区立産業商工会館で6月29日、「杉並区交流協会」主催による「まるごと台湾フェア」が盛大に開催された。オープニングセレモニーには田中良・杉並区長ら杉並区関係者、台湾側からは台北駐日経済文化代表処の羅坤燦・副代表が出席し、テープカットが行われた。

田中区长は、あいさつの中で、台湾と杉並区の深い交流の輪が広がる環境の下で、同イベントが開催に至ったことを説明し、今後ますます杉並区と台湾の交流が深まることに期待の意を示した。

羅・副代表は、「今回の『まるごと台湾フェア』をきっかけに、杉並区の方々に、より一層台湾への興味や関心を持っていただき、今後ますます良好な台日関係の発展が促進され

るよう願っている」とあいさつした。

活躍「いのちの闘士」訪問団

台湾の周大観文教基金会が主催する「いのちの闘士」訪問団一行24名が来日し、7月22日に東京・白金台の台北駐日経済文化代表処で記者会見を開いた。

今回来日した「いのちの闘士」一行は、がん等の病気や障害を抱えながらも前向きに生きる子どもたちおよび、その家族が参加。記者会見では、「いのちの闘士」のメンバーらによる「小星星楽団(リトルスター・バンド)」による演奏が行われた。

沈斯淳・駐日代表は、「困難な状況の中でも常に前向きな気持ちで忘れず、夢に向かって進む姿は、人々に感動と勇気を与える」とあいさつした。

日本交流協会の小松道彦・総務部長は、「日台間の深い友情と信頼関係は、幅広い分野での交流が長年にわたって積み重ねられてきた結果である。今回の同基金会の訪日交流がこのような日台間の大きな流れの一部となることを大変嬉しく思う」と述べた。

深み増す台日観光交流

台湾の航空会社

日本行き路線拡大

台湾の中華航空（チャイナエアライン）は、3月21日より桃園（台北）—高松線の定期便を開設。5月25日に嘉義—静岡の初のチャーター便を運航した。

エバー航空は、4月3日より桃園—岡山線、5月2日より桃園—旭川線の定期便が就航した。

また、復興航空（トランスアジア航空）は、5月23日から桃園—石垣島を定期便化。9月26日に桃園—東京（成田）線を開設した。

台鉄平溪線と江ノ島電鉄

「一日乗車券」観光連携協定締結
台湾鉄路局（台鉄）は4月23日、「江ノ電」の愛称で親しまれている神奈川県鎌倉—藤沢を結ぶ江ノ島電鉄と観光連携協定を締結した。

台鉄によると、同協定は、使用済み「江ノ電一日乗車券」のりおりくんを、台鉄の台北駅および瑞芳駅の窓口にもパスポートと共に持参す

ると「平溪線一日周遊券」が無償提供されるほか、使用済み「平溪線一日周遊券」を江ノ電の藤沢駅・江ノ島駅・鎌倉駅の窓口を持参すると「江ノ電一日乗車券」のりおりくんが無償提供される。

同協定の実施期間は2013年5月1日—2014年3月31日。

阿里山森林鉄道と黒部峡谷鉄道

姉妹提携締結

台湾の阿里山森林鉄道は4月20日、富山県の黒部峡谷鉄道と姉妹提携を締結した。

行政院農業委員会の林務局嘉義林区管理処によると、日本の黒部峡谷鉄道と台湾の阿里山森林鉄道は、軌道幅が同じナローゲージ（762mm）であり、いずれも産業開発のために建設され、現在は観光鉄道となっていることも共通している。

阿里山森林鉄道は、静岡県の大井川鉄道とも姉妹提携を結んでおり、黒部峡谷鉄道は2つ目の姉妹提携鉄道となる。

台北101と東京スカイツリー 友好関係締結

台湾最高の超高層ビル「台北101」と日本最高のタワー「東京スカイツリー」の友好関係締結式が5月13日に「台北101」で行われた。

「台北101」は、2005年の正式開業からこれまでの展望台入場者が1300万人を突破し、今年4月には一日あたりの最高来場者数が9550人となった。また、「台北101」の統計によると、2012年に同展望台を訪れた日本人観光客は36万人に達し、展望台来場者の約16%が日本人観光客だった。

「台日観光サミット」三重県で開催
「台日観光サミット」が5月31日、三重県で開催された。同サミットは2008年より双方が毎年交互に開催しており、今回で6回目。当日は、台湾側から交通部の謝謂君・觀光局長、台湾観光協会の頼瑟珍・会長、沈斯淳・台北駐日経済文化代表処代表、日本側から觀光庁の井手憲文長、鈴木英敬・三重県知事をはじめとする台日双方の政府関係者、旅行者など約200名あまりが出席した。

沈・駐日代表は、「台湾と三重県は観光面において具体的な協力の発展があるが、投資面においても新しい成果が出ている」と強調した。

今回の「台日観光サミット」において、2016年の相互旅行者客数400万人の目標を取り決めると共に、双方の交流実務について、広範な話し合いを行った。

交通部觀光局2013年5月31日
2013年上半年期
約178万人が台日間往来

交通部觀光局および台湾観光協会は、2013年上半年期（1月—6月）の観光統計を発表した。

2013年上半年期に台湾を訪れた日本人旅行者数の累計は66万7833人だった。また、同期間中における日本を訪れた台湾からの旅行者数は110万9225人だった。日本を訪れた台湾人旅行者数は同51・66%増で、顕著な伸びを示した。

同年上半年期における台日往来者数の累計は177万7058人だった。

交通部觀光局、台湾観光協会
2013年7月17日

支持広がる台湾の国際参加

馬總統、台湾の国際活動参加推進

地域の平和促進への取り組み説明

6月19日、馬英九總統は、台湾が地域の平和を積極的に促進する努力と成果について説明した。

馬總統はその中で、「台湾は現段階において、『国連気候変動枠組み条約』(UNFCCC)および『国際民間航空機関』(ICAO)など関連する活動への参加を積極的に推し進めている。とりわけ台湾は、『台北飛航情報区』を飛ぶ航空機に年間130万回もの航空情報サービスを提供する必要が、飛行の安全について台湾はまさに国際民間航空界において重要な地位にある。しかし、台湾はICAOの会議に出席することができず、情報の取得が比較的遅くなつてしまひ、飛行全体の安全にマイナスとなつてゐることから、同機関への速やかな加盟を希望してゐる」との考えを示した。

【總統府 2013年6月19日】

ICAO総会に

台湾が特別ゲストとして出席

「国際民間航空機関」(ICAO)のロベルト・コーベ・ゴンザレス理事會会長は9月11日、沈啓・交通部民用航空局(民航局)局長に対して「チャイニーズタイペイ(中華台北)」名義の代表団を理事會会長の「特別ゲスト」として9月24日〜10月4日にカナダのモントリオールで開催される第38回ICAO総会に出席するための招待状を送付した。わが政府はこれを歓迎し、同総会に出席する意向を伝えた。

同総会にわが国が出席するのは、2009年よりICAOへの有意義な参加を推進し始めて以来、初めての具体的な進展である。わが国は今後、より一層効果的に国際航空基準の制定の方向性を把握し、最新の重要な飛行安全情報を取得することができるようになるほか、各国および国際民間航空会社グループからなる

団体・機関と国際民間航空のテーマについて相互協力の交流ができるようになる。

【外交部 2013年9月13日】

第66回WHO年次総会出席

医療・保健テーマに各国と交流

世界保健機関(WHO)の第66回年次総会(WHA)が5月20日〜28日にスイス・ジュネーブ開催され、台湾は5年連続でオブザーバーとして出席した。

今回の台湾代表団の団長を務めた邱文達・衛生署長は、5月22日の総会で演説し、台湾の医療・保健に関する経験と成果を対外的にアピールした。

また、WHO加盟国と世界の医療・保健をテーマに交流を深め、19の専門会議に参加し、22カ国と二国間会談を行い、さらに「兩岸医薬衛生協力協議」締結後初めて兩岸の保健担当閣僚が会談した。

ニュージーランドと

「経済協力協定」調印

馬英九總統は台湾とニュージーランドが今年7月10日に調印した「経

済協力協定」の意義について語り、①台湾が初めて国交のない南半球の先進国と経済協力協定に調印した、②協定の一部内容が世界貿易機関の基準(WTO plus)を上回る、環境保護の規定などが盛り込まれたものである、③オープンスカイ、映画・テレビ番組制作、先住民族協力等の特色ある条項が盛り込まれたことなどを強調した。

さらに馬總統は、3年前に中国大陆と「兩岸経済協力枠組み協議」(E CFA)に調印して以来、今回初めて国交のない国との経済協力協定調印に至ったことが、兩岸関係の改善と同時に国際参加を拡大する努力の成果であるとの認識を示した。

また、馬總統は「ニュージーランドは『環太平洋パートナーシップ協定』(TPP)の創設メンバーであり、『東アジア地域包括的経済連携』(RCEP)の構成メンバーでもある」と指摘し、今後、より積極的に地域経済統合に参加していく決意と取り組みを示し、台湾がTPPおよびRCEPに参加する有利な条件を創出していくことに意欲を示した。

【總統府 2013年7月16日】

今年秋からの 台日文化交流活動

東京国際映画祭に台湾映画が6作品

10月17日(木)～同25日(金)に開催される第26回「東京国際映画祭(TIFF F)」のワールド・フォーカス部門において、【台湾電影ルネッサンス2013】と題し、台湾映画6作品が特集上映される。同映画祭で、台湾映画の特集上映は、第18回、第23回に続き、今回が3回目、3年ぶりとなる。

上映作品は：「27℃—世界一のパン」「失魂」「高雄ダンサー」「Together」(総舖師—メインシエフへの道)「坊やの人形」

詳細は、TIFFのウェブサイトを参照。(http://2013.tiff.jp.net/)

南投県で台日工芸作家の交流展

台湾と日本の工芸作家による展覧会が、南投県にある「国立台湾工芸研究發展センター」工芸設計館で今年12月に開催が予定されている。

同展では、今年8月に金沢21世紀美術館で開催された「世界トリエンナーレ」に出展した台日双方の作家の作品が展覧される予定である。

台日間の芸術交流展

台湾と日本の芸術文化交流事業の一環として、10月23日(水)～同30日(水)に、台湾の文化部と東京藝術大学が主催し、上野にある東京藝術大学の学内で2つの展覧会とシンポジウムが開催される。一つは「台湾の漆芸と東京藝術大学」で、台湾から26名の漆芸作家の作品と日本の17名の作家の作品が展示される。26日(土)には「伝統と現代—漆芸の現代表現」をテーマにシンポジウムも開催される。

もう一つは「社会と環境におけるプラスチックアート展」で、台日双方の作家5名の作品が展示される。23日夜には、「現代のプラスチックアートの表現について」のシンポジウムが開かれる。

詳細については、台北文化センターまで(03-3280-7833)

台湾平埔族の歴史と文化展

9月12日(木)～11月26日(火)に、大阪府吹田市千里万博公園内にある国立民族学博物館で、「台湾平埔族の歴史と文化展」が開催されている。

同展は、台湾の先住民族の中で、早くから漢族の影響を受けてきた平埔族(へいぼく)について、その歴史と文化を考え、彼らの主張を台湾社会の人たちが耳を傾ける機会を作った国立台湾歴史博物館の特別展示会を日本で再構成し展示したもの。

台湾の世界遺産候補地の魅力展

11月27日(水)～12月1日(日)に、東京都千代田区外神田にある「アーツ千代田3331」で、「知られざる台湾世界遺産候補地の魅力」と題するイベントが、「一般社団法人 日本から台湾の世界遺産登録を応援する会」の主催で開催される。会場は3つのエリアに分けられ、台湾の世界遺産候補地の写真展、台湾パノラマバーチャルツアー、基調講演「台湾世界遺産登録への道」とシンポジウム、一龍斎貞花さんの講演「台湾に命がけのダム建設・八田與一」など、さまざまなプログラムが用意されている。

「日台文化芸能の出来事」は、年表形式で資料をウェブサイトで公開しています。台北駐日経済文化代表処ウェブサイト内の台湾資料庫をご覧ください。

http://www.roc-taiwan.org/jp

■台北駐日経済文化代表処

〒108-0071
東京都港区白金台五丁目21番二
電話：03(3121)8078-11
http://www.roc-taiwan.org/jp

■台北駐日経済文化代表処横浜分処

〒231-0021
横浜市中区日本大通り六十番地
朝日生命横浜ビル二階
電話：045(564)1773-618
http://www.roc-taiwan.org/jp/YOK

■台北駐大阪経済文化弁事処

〒550-0001
大阪市西区土佐堀一丁目4-8
日栄ビル四階
電話：06(644)3384-817
http://www.roc-taiwan.org/jp/Osaka

■台北駐大阪経済文化弁事処福岡分処

〒810-0024
福岡市中央区桜坂三丁目二十四番二
電話：092(734)2181-011
http://www.roc-taiwan.org/jp/FUK

■台北駐日経済文化代表処那覇分処

〒900-0015
沖縄県那覇市久茂地三十五番九
アルテビル那覇六階
電話：098(862)7008
http://www.roc-taiwan.org/jp/NA

■台北駐日経済文化代表処札幌分処

〒060-0001
北海道札幌市中央区北四条西
四丁目一番地 伊藤ビル五階
電話：011(111)1193-10
http://www.roc-taiwan.org/jp/OKD